

久留米発!

みんなで考えてみよう、このまちの防災

参加無料

2026年

2月27日金

午前の部：9:30-12:00
午後の部：13:00-16:00

会場：久留米シティプラザ大会議室
福岡県久留米市六ツ門町8-1

久留米市では、誰もが安心して暮らせる地域をめざして、2つの防災プロジェクトに取り組んできました。要配慮のある方のお試し避難訓練や、小さな拠点での活動、防災の学びや話し合いなど、さまざまな実践を重ねる中で、人と人とのつながりや助け合いが広がり、地域で“動いてみる”人が増え始めています。本報告会では、1年間の気づきをわかち合い、全国の仲間とも交流しながら、これからの久留米らしい防災の姿を一緒に考えていきます。

午前の部：9:30-12:00

1 休眠預金活用事業成果報告

要配慮者のお試し避難訓練や小さな拠点づくり、地域コーディネーター育成など、この1年の実践結果を紹介します。

2 パネルディスカッション

「自律分散自治と地域防災の未来（仮）～防災を自分のものに」をテーマに多角的にディスカッションします。

3 全体ワークショップ

会場の皆さんと「防災を自分のものに」するために、自分ができること、地域ができることを話し合います！

午後の部：13:00-16:00

1 内閣府事業成果報告

地区防災計画や防災教育の取り組みを中心に、住民・子ども・地域の多様な人たちが学び合いながら防災力を高めてきた一年間の成果を紹介します。

2 パネルディスカッション

「コミュニティ防災教育の今後の展望と課題（仮）」をテーマに多角的にディスカッションします。

3 全体ワークショップ

会場の皆さんとコミュニティ防災教育を自分の地域で展開するために必要なことについて話し合います！

登壇者（予定）

菊池馨実（早稲田大学教授） 杉山高志（九州大学准教授） 山内幸治（NPO法人ETIC.）
堀田聡子（慶應義塾大学教授） 野崎伸一（厚労省） 黒潮町、福知山市、佐賀関の皆さん 他

お申し込み方法

・申し込みフォーム（QRコード）からお申し込みください。
・報告会終了後に懇親会あり☑

お問い合わせ 担当：堀江 TEL：080-5257-4933
主催：久留米市コミュニティ防災教育推進協議会/社会福祉法人拓く

社会福祉法人拓く

1970年代より久留米市で展開した障がい児の保護者と教員による統合教育運動が原点。2000年10月法人設立。障がいがかくても誰もが地域で暮らすために「コミュニティづくり」に取り組んでいます。

事業所

出会いの場ポレポレ・夢工房・グループホーム・ポレポレ居宅介護支援センター
出会いの場Leo・相談支援センターカリブ・久留米市西部障害者基幹相談支援センター

活動を更新中!

拓くウェブサイトQRコード

2025
12月号
No.25

祝! 法人25周年記念号

2025年12月号（年2回発行）

発行 社会福祉法人拓く 法人本部

〒830-0071 福岡県久留米市安武町武島468-2

TEL 0942-2712039

地域共生社会を拓く

第1弾

理事長メッセージ15

社会福祉法人拓く 理事長 馬場 篤子

2025年10月2日、当法人は25周年を迎えました。遡れば2000年、法人設立の目的は重度障がいや医療的ケア、強度行動障がいの方々で暮らせる場をつくること。その目的は、2005年「チェムチェム」、2006年「ニュンバ」のグループホーム開所と早い時期に実現しました。

当法人のルーツは1970年代、久留米養護学校（現・市立特別支援学校）での実践に始まります。私も含めて20代の教員たちは「共に学び共に生きる」を唱え、障がい児を地域の学校に通わせる運動に取り組みました。当時は親戚や同僚の結婚・出産を我が事のように喜び合うようなつながりがあった時代。教員と保護者の有志で無認可共同作業所「夢工房」を立ち上げると、市内で同様の開所が相次ぎ、それらがいわば地域の「小さな拠点」となり、支え合いのあるコミュニティが誕生しました。

法人設立から5年目、厚労省の調査・研究事業を官僚や有識者の皆さんと推進するチャンスを得て、いずれ福祉サービス事業では対応できない時代が来ると確信。2009年、グループホーム「三原さん家」「下宿屋南の家ほっと」を「小さな

拠点」に位置づけ、異業種や多世代の集まり、地域食堂の運営、住民による移動支援などの実践を重ねながら、住民が主体的に参画する「新しいコミュニティ」づくりへの扉を開きました。その精神のもと、現在、（一社）「ほんによかね会」と（一社）「ぷらっとどっと」、「本業+α」プロジェクトと協働し、活動中です。

「共生・共育」を謳ってから半世紀が経ち、家族や地域、職場の支え合う機能が低下し、災害も多発する中、障がい者や高齢者、子どもなど誰もが小規模だからこそ気負わずに立ち寄れて、顔の見える関係を築ける「拠り所」の役割は重要性が高まっています。そこで、2021年「そなえるくるめ」との協働を加えて、2024年「くるめ防災プロジェクト」を受託。法人の中核に「小さな拠点づくり」を据えて事業を推進しています。

拓くが目指すのは、「高齢者も障がい者も活躍できる」、また、「誰かが災難にあった時に誰かが駆け付ける」、そんな社会。これからも自由な発想を大切に、かつ愉快的仲間を増やしつつ羽ばたき続けます。

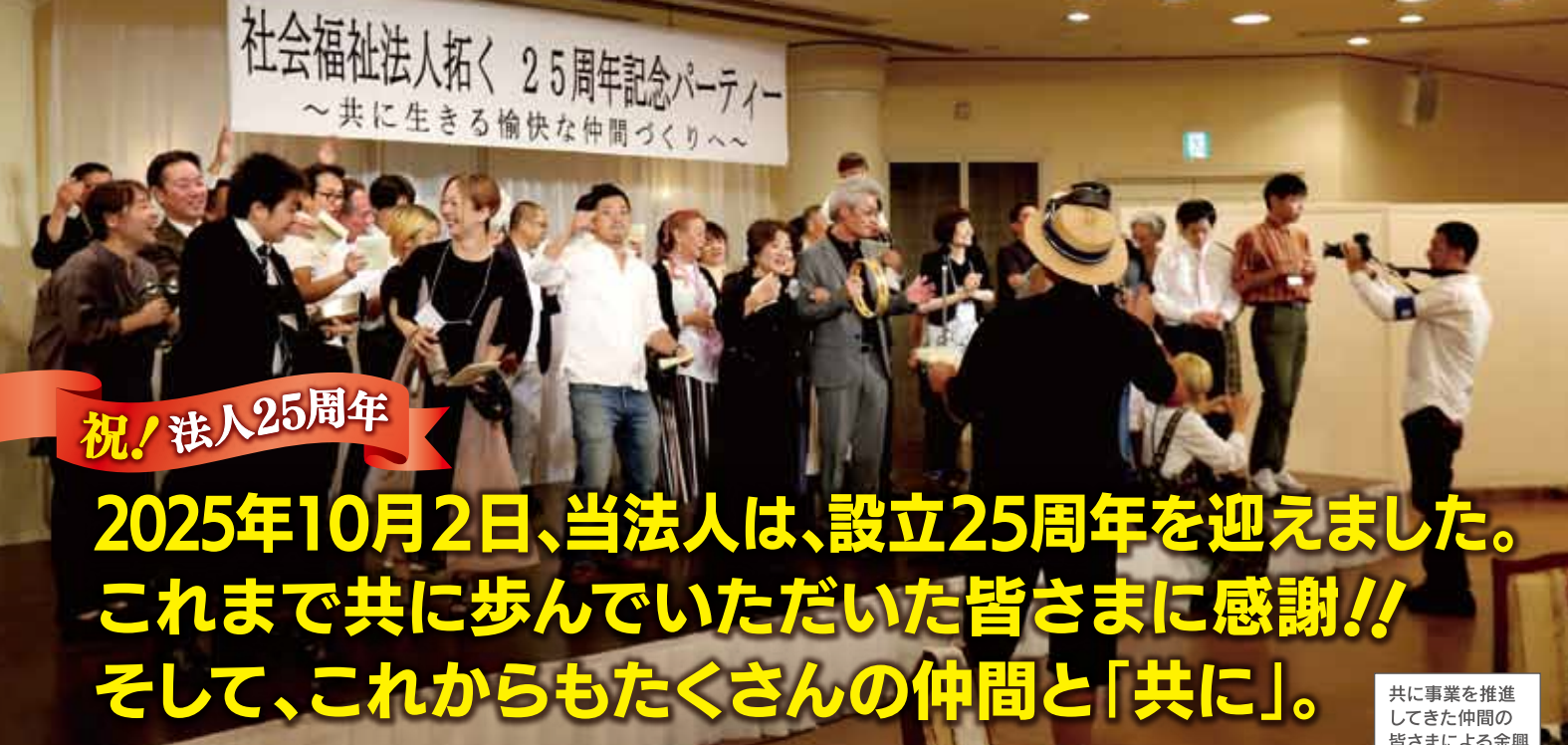
CONTENTS

特集 法人25周年とこれから……2～4

● 特集 第24回ポレポレ祭り……5～7

● 告知 2026年2月27日 久留米発！住民起点の防災報告会……8

〈写真〉25周年記念パーティーに全員集合。安武町の皆さまの発案による「ひよつとこ踊り」の披露。



祝！法人25周年

2025年10月2日、当法人は、設立25周年を迎えました。これまで共に歩んでいただいた皆さまに感謝！！そして、これからもたくさんの仲間と「共に」。

共に事業を推進してきた仲間の皆さまによる余興

8月31日、法人設立25周年記念パーティーを挙行。次の25年へ。

理念「混ざり合い 共に生きる」のもと、出会いの場ポレポレ、夢工房、出会いの場Leo、グループホームの各事業所は、異分野・異業種の方々と混ざり合いながら、地域、そして全国の仲間と共に、「拓くらしく」歩いていく。

社会福祉法人拓く 統括本部長 北岡 さとみ

心を新たに、みんなの「出会いの場」となる

パーティー当日、会場にお集まりいただいたのは、利用者のご家族、地域、活動団体、企業、そして行政など総勢435名の皆さまです。この25年間で異分野・異業種の方々と出会い、顔の見える関係が生まれ、信頼し合える仲間がたくさん増えました。日本を取り巻く世界情勢、環境は時代とともに変化を遂げ、その度に福祉制度の見直しや対応を迫られてきましたが、そういった障害福祉サービスの事業に向き合うだけでなく、公益事業としての地域づくりにも力を入れてきた成果だと思います。



櫻木京子初代理事長(中央)、國友淑子元理事(左)より、拓くの歩みについて話していただいた。(右・馬場理事長)

拓くは、重度の障がいがあっても地域で暮らすことを目指して歩みはじめました。これまで利用者と一緒に団体旅行で全国各地に行きましたが、それは現地で、「一緒に楽しもう」とサポートしてくれる福祉事業所の仲間がいたからこそ実現



多くの仲間の皆さまと盛り上がった。

できたのです。ポレポレ祭りをはじめ、2005年以降は法人の領域を超えて、1000人規模の研修の企画運営や国の調査・研究事業を実施することで、久留米市内外の多くの方に声をかけて巻きこんでの協働も。その結果として、障がい者だけではなく、子どもから高齢者、誰もが暮らしやすい町となり、仲間を増やしていくことこそ、人生の豊かさにつながると理解するようになりました。

25周年記念パーティーは、皆さまへの感謝と次の25年に向けた新たなスタート。2001年に「出会いの場ポレポレ」は知的障害者通所授産施設として開設しましたが、この度、建物改修に着手します。これからの災害に備えるために防災対策にも力を注ぎ、みんなで命を守り合う。そのために安武町の地域拠点となり多くの方が集い、日頃から顔見知りになるための「出会いの場」となるよう、そして、誰もが生きがいを持って「活躍できる場」となるよう努めていきたいと思います。



利用者の保護者、地域の若手と共に閉会の挨拶を行った。(左・北岡統括本部長 右から2人目・浦川本部長)



ダンス披露

最後はみんなやりきり、自信に満ち溢れた笑顔でポーズ！

祝！法人25周年

地域で多くの人と出会い、役割を持ち、共にエンパワーし合えるように。

夢工房 管理者 野上 真紀子

多様な人たちが教えてくれた可能性

夢工房は、活動の原点に「どんなに重い障がいがあっても地域で働いてほしい」という願いのもと誕生しました。2007年、当法人と合併し、パン屋、カフェ、惣菜店などそれぞれの現場で懸命に努力を重ねてきましたが、次第に組織自体が内向きになりお互いがエンパワーできる関係が築けず、施設の外へ飛び出し、企業の多様な人々と一緒に働くことへ舵を切りました。企業の中で、「支援される対象」ではなく「一緒に働く仲間」として社会と交わる。その経験こそが、利用者の主体性と自信を引き出したと思います。「新しいスタッフが来たら自分が教えよう」「明日は〇〇にチャレンジする」と、利用者が主体的に行動するきっかけになりました。

法人が25周年を迎えた今年、「愉快的仲間」と私たちが呼んでいる、素晴らしい外部の方々との出会いがありました。きっかけはくめ防災プロジェクトに関わったことのある皆さま

でした。その方々がダンス講師やダンスの経験者であったご縁から、8月の25周年記念パーティーのステージで、ダンス披露という挑戦へ。当初、スタッフは「ダンスは難しいだろう」と無意識に線を引いてしまう気持ちでしたが、「愉快的仲間」の皆さんは「きっとできる」と信じて練習を。実際に利用者は目を輝かせて前向きに取り組み、ステージでは自分たちでも気づかなかった力を発揮されていました。多様な人たちと関わり、信頼関係を築く中で、スタッフ以外の皆さんが教えてくれた可能性だと実感しています。

これから、「どんなに重い障がいがあっても地域で働く」という活動原点に戻り、利用者と企業の皆さん、「愉快的仲間」と、お互いをエンパワーできる関係を築きながら、みんなの世界を広げていけるよう、私たち自身が変わり続けていきたいと思っています。



ダンススタート前、みんなで気持ちを一つに。



施設外就労

毎回自分たちで目標を決めて取り組んでいる。



ダンスを教えていただいた愉快的仲間の方々と一緒に。

夢工房

1988年無認可共同作業所「夢工房」が誕生し、クッキーの製造・販売が始まる。のちに当法人と合併し、就労継続支援B型・生活介護事業へ。「施設外就労」「業務委託作業」では企業と連携し、高工賃を目指している。



祝！法人25周年

混ざり合い共に生きる。
集まる機会を増やして、信頼関係をつくる。

父親会が企画・運営し、スタッフやボランティア関係者も混ざり、大盛り上がり！

出会いの場 Leo 管理者 溝尻 博子

「共に育ち合う場所」にするには

2020年8月に児童発達支援事業所「出会いの場 Leo」誕生、翌年Leoの隣り合わせに、一般社団法人「ぷらっとどっと」が併設。他の事業所「出会いの場ポレポレ」「夢工房」等の利用者、かわいらしい子どもたち、若い保護者が混ざり合い、25周年を迎えた法人は活気づいています。

Leoでは、送迎を保護者の方にしてもらうことにこだわっています。毎朝夕、顔を見て呼びかけやお誘いができ、元気がない時は「どうしたの」等と踏み込んで聞けるからです。そんな中で、家族記念写真を撮りたくても撮れず、諦めていた家族のために「Leo写真館」を開催したり、赤ちゃんが誕生したご家族の自宅に行き、沐浴の手伝いやお母さんと話したりする時間を過ごすことも。



出会いの場ポレポレの保護者に
教えて頂きました！！

Leoの子どもたちのお父さん方も
「おいしくなれっ」の
想いを込めて、真剣！



Leo・ぷらっとと関係者・
地域の皆さんとお花見

手作りを持ち寄り、
美味しいご飯とおやつで
大満足！

夏祭り、秋祭り、餅つき等のイベントは土日曜日に開き、ご家族みんなで楽しんでもらいます。他にも折に触れて食事会、2023年に「父親の会」を発足、ポレポレの保護者と一緒なたこ焼き販売をしたり、子どもたちのお泊り体験のHelpで来てくれたりと少しずつ関係性を深めています。また、隣り合わせの「ぷらっとどっと」では軽食カフェや引きこもり支援、小学生の寺子屋、駄菓子屋さん、ポレポレ祭りの事務局、くるめ防災プロジェクトなど様々なことに取り組み、「関係人口」を増やしてきました。そして、Leo誕生から5年が経ち、法人の次なる25年に向けて、「共に育ち合う場所」になるために、軸となる方向性をしっかり出していきたいと考えています。「Leo」や「ぷらっとどっと」が開設された意味をしっかり追求し、それぞれが最善を尽くせるようにフェーズを変えていきたい、本当の意味で育ち合い、混ざり合い、生きていける場を作ります。

特集 第24回 ポレポレ祭り みんなで主体的に創り上げる体制づくりへ。 次の一步を踏み出していく。

11月2日(日)、第24回ポレポレ祭りは、ボランティアやイベント出演者など853名の方々とともに創り上げた。テーマは、「共に手を取り、共につくろう。新時代。いつもがもしもにキドウする」。防災をメインテーマに、多くの皆さんと絆を深める一日となった。

第24回ポレポレ祭り実行委員長 永田 薫郎

ステージに緊張しながらも
全力をだすオープニングの様子



子ども達もがんばった!!

地域の方々、ボランティアの
皆さんといっしょに！

サタデー太鼓
フィーバースによる
庄巻のステージ

今年はステージの向きを
かえた会場の様子

地域にとって、さらに「信頼ある祭り」へ。

今年、実行委員長という役割をいただき、改めて感じたのは、ポレポレ祭りの土台には、「みんなで主体的に創り上げる体制」が根づいているということでした。誰かが強く引っ張る祭りではなく、それぞれが役割を持ち寄り、自然と動き出す。その積み重ねこそ、24回の歴史が育んできた大きな力です。

今年は二つの会場で開催したことで、新たな参加団体が増え、祭り全体が「更新されていく感覚」を強く感じました。長く続いてきた知恵が土台になりつつ、「新しい人」の参加によってさらに広がっていく。その流れが、祭りの未来を形づくっていくのだと思います。

特に印象的だったのは、参加団体の主体的な動きです。たとえば、バザー団体では「買い出しから当日の会計まで、自分たちで担いたい」との声が参加団体より上がり、一連



南筑高校書道部による書

の流れを自主的に取り組む体制へと移行しました。自分たちのブースを自分たちで創り上げるという姿勢が形になり、祭り全体に前向きな活気をもたらしたのです。

約600名にのぼるボランティアの皆さん、そして地域の皆さんの協力によって支えられるこの祭りは、毎年「また来たい」と思っただけの喜びと躍動感があります。地域にとって信頼され、愛される祭りとして根づいてきたことを実感しています。

これからも、主体性を持った人々が関わりながら進化していく祭りであるために、地域の皆さんとともに次の一步を踏み出していきたいと思っています。

社会課題にも取り組み、 “意識”と“知識”を重ねて、地域を変えていく。

社会福祉法人拓く 本部長 浦川 直人



第2会場を設けスペースができたことで、EVを活用した非常用電源確保、防災ワークショップなどの新規企画。



参加者の防災の意識や知識の変化に手応え

ポレポレ祭りでは、社会課題のひとつ、「防災」をメインテーマにして2年目である。サブテーマに「いつもともしもにキドウする」を掲げた。昨年は「まずできることから始めよう」と、拓くが炊き出し用の大釜を2台購入し、カレーの炊き出しを実施した。祭り後も、この大釜は市内の幾つかの校区のイベントで繰り返し活用され、「自分たちの地域にも備えとして用意したい」という声上がるなど、防災への意識が徐々に広がっている。わずか5時間の祭りであるが、参加者の意識や知識が確かに変わり、行動や考え方の変化を生み出すことができたと実感している。

今年は一歩進め、「水なし・電気なし」でのバザー運営や体験ブースに挑戦した。昨年以降、日頃から災害時を想定した炊き出し訓練を継続し、電源確保の方法や機材導入の検討など実践を重ねてきたことで、準備はスムーズに進んだ。炊き出しでは新たに料理の専門家にも加わってもらい、メニュー開発や保温の工夫を学ぶなど、さらなる気づきを得ることができた。新企画で雨水の日

常・災害時の活用も盛り込み、貯水タンクを購入・展示したり、雨水ソーダを販売したりすることで、新しい意識・知識を発信することができた。また、企画段階では、実際に体験することこそ、備えの必要性を自分事として受け止めるために必要なことだと、「使用頻度は少ないが、簡易トイレの体験は重要であるため、実施しよう」という声が自然に上がる。昨年からの取り組みを通じて、防災が特別なもの（もしも）ではなく、自然と考え、行動できる意識が根付き始めていると感じている。防災の取組は一度行えば終わりではなく、何度も考え、試し、実際にやってみることで日常（いつも）に溶け込んでいくものである。

ポレポレ祭りでは、防災だけではなく、聴覚・視覚障がい、ギャンブル依存など様々な社会課題に対しても祭りの企画として盛り込んでいる。それら企画のプロセスで新たな人を巻き込みながら、より新しい意識・知識を積み重ねられるような祭りにしていきたい。

被災地と他の地域の方々が祭りに参画し、語り合う。 人とのつながりが意識改革を起こす。

社会福祉法人拓く 事務長 福井 尚子



福島県、石川県、愛知県の皆さんと一緒に前を向いて進んでいこうとの思いから「上を向いて歩こう」を熱唱。

人命、活力、つながり… 多くを学ぶ。

ポレポレ祭りは、毎年県外からも大勢参画していただきます。今回は、東日本大震災、能登半島地震の各被災地の福島県と石川県、そして、能登半島地震の被災者を受入れ、支援をされた愛知県の福祉事業所の皆さんが駆けつけてくれました。当法人は、地震の発災直後からその2ヶ所の現地に入り、余震や二次災害の恐れと隣り合わせの中で暮らし続ける方々にほんの少し寄り添いながら、今日までつないできたご縁によるものです。

祭り当日、イベントステージで被災の話をしていただく予定でしたが、当時の状況や思いを伝えるには、到底時間が足りない判断し、祭り前日に安武老人憩いの家にて座談会を収録し、後日YouTubeで配信する企画を追加しました。座談会では、福島県の方が14年前の当時を

思い起こしながら、被災した時の様子やその後の状況を語られる言葉に皆さんは熱心に耳を傾けておられました。石川県の方は、発災直後家を飛び出した矢先、地域住民の「津波がくるから高い場所へ逃げろ!」という叫び声が聞こえてきて住民と必死に逃げたことを話され、「人とのつながりや壊れない絆が大切だ」と。また、愛知県の方々は、「何ができるか、何が必要かと考えるきっかけが生まれました」と力強く語っておられました。

私達は、震災を経験した皆さんから寄せられたメッセージを次世代に伝え続けていきたいと思っています。座談会の様子をYouTubeで紹介します。皆さん、ぜひご覧いただき、自分事として考えてみてください。

YouTube ポレポレ祭り「災害経験者から学ぶ防災座談会」チャンネル 視聴可能期間 2026.1.1~

第24回 ポレポレ祭り 収支決算報告

収入の部

項目	金額
広告・協賛	3,065,000
売上	2,828,901
その他(お祝い・利息・買取)	167,963
収入合計 ①	6,061,864

支出の部

項目	金額	項目	金額
消耗品	422,156	その他	1,323,152
設備費・警備費	780,792	支出合計 ②	4,506,993
通信・印刷・パンフレット代	429,155	収支差額 (①-②)	1,554,871
バザー材料・仕入費	1,531,738		